

偶然の一致か？

JJ1SXA/池

先の大戦で敗戦国となった日本は、連合軍により軍事占領され、昭和 27 年 4 月 28 日のサンフランシスコ講和条約発効により、占領から解き放たれたのです。

昭和 20 年 9 月に連合国最高司令官として、パイプを加え、サングラス姿で厚木飛行場に降り立ったのがマッカーサーです。

我々年配者には、あの姿は、目に焼きついて離れないものとなり、また、マッカーサーという名前は、脳裏にこびりついて離れないものとなりました。

戦中に小学校低学年で受けた教育は、天皇は現人神(あらひとがみ)であり、国民は赤子(セキシ)として、国のため、天皇のため命を投げ打つのは当たり前、日本が戦争に負けるなどとは夢にも思わなかったし、軍服姿は凛々しいものとのイメージの中で、パイプにサングラスは衝撃でした。

平和ボケをしている現代の日本では、笑い話とも言えるが、子供の我々にとっては神国日本は不滅だったのです。

教育という名を借りての洗脳は恐ろしい、未だに、近隣の彼の国だけにとどまらず、世界各国いたるところで見受けられます。

前置きが長くなりました、いろいろのところからの引用になりますが、以下に日付を列挙します。

東京裁判に関して

昭和 21 年 4 月 29 日、起訴(昭和天皇誕生日)

同 5 月 3 日、審理開始(後の憲法記念日)

同 23 年 12 月 23 日、七人同時処刑(皇太子→現天皇誕生日)

日本国憲法に関して

昭和 21 年 11 月 3 日、公布(明治天皇誕生日)

同 22 年 5 月 3 日、施行(東京裁判審理開始一周年)

昭和天皇、現天皇の誕生日と重なるこれらの日は、奇しくも一致しただけのことか？意図的なものなのか？

マッカーサーは、フィリピンのバターン半島コレヒドール島から敗残の将として退却したが、後に、フィリピン戦線で投降した山下奉文大将と本間雅晴中将に復讐とも言える措置をとっている。

勝者として乗り込んで来た彼は、早速、山下奉文大将と本間雅晴中将の裁判を開始し、山下奉文将軍に対しては、昭和 21 年 2 月 23 日に、囚人服のままという屈辱を与えて絞首刑を執行した。

本間雅晴中將に対しては、昭和20年12月19日、裁判開始、同21年2月11日、死刑判決、同4月3日午前0時53分、銃殺刑執行。

この銃殺刑執行の昭和21年4月3日午前0時53分は、4年前に本間中將がマッカーサー等が退却して立て籠もるバターン半島に対する総攻撃を命じた、4年前の昭和17年4月3日午前0時53分にぴったりと符合している日時である。

これ等を総合的に見てみると、日時は偶然に一致しているのではなく、あくまでも意図的なものと思えます。

それにしても、マッカーサーという男は、こんなに執拗に嫌がらせをするいやらしい男だったのか？あるいは、アメリカという国は報復が最優先する国なのか？

東京裁判に関してはいろいろ疑問があるようですが、マッカーサーの来日したのが、昭和21年9月、上記2名の刑執行はその後わずか5~7ヶ月の間、十分な審理もそこに刑を執行した、復讐といっても過言では無さそう。

戦争で無くても、争い事は世界各地で勃発しています、憎しみだけが残る、そんな争いの無いことを祈るのみですが、現実には目を背けるだけではすまないようです。

今の日本の政治家は、ほんの一握りを除き、余りにも小粒、天下国家を論じるなどの広言は、ちゃんちゃらおかしい、私利私欲を離れ、国家百年の礎を築くことに専念せよと声を大にしたい。

確かに、選挙で落選すれば、失業者？どんなに立派な政策をもっている、それを実行するためには議員でなければならず、且つ、政権与党に属する方が絶対有利であるには違い無い。

それを勘案すれば、当選することが一番の目的と言うことで、大衆受けする言動に走るということになるのでしょう。

…自分たちの大事な家に、「強盗に入るぞと」宣言されておきながら、戸締りをしない国はどこにあるのか。…

これは、石原慎太郎氏が、尖閣諸島購入に関し、国会で参考人として発言したものです、石原氏に対しては、好き・嫌い言えば、あるいは、政策・信条等については賛否合い分かれるところですし、私も全面的に賛意を表すわけではありませんが、この発言の内容は是と考えます。

上記は一例に過ぎませんが、余りにも平和ボケした日本と日本人に、警鐘を鳴らす人達もいます、私はそういう人達に大拍手です。